

研究課題名	切除企図肝門部領域悪性胆道狭窄に対する術前至適なplastic stent留置とRBOの危険因子の検討
研究の意義・目的	切除を予定した肝門部領域の悪性胆道狭窄に対する術前ドレナージは、残存予定肝への片葉ドレナージが推奨されています。内視鏡的胆道ステント留置術 (endoscopic biliary stenting; EBS)は、経鼻胆道ドレナージ留置に比しステント再閉塞 (recurrent biliary obstruction; RBO)が懸念されていますが、様々な理由より EBS を行っている施設が多いです。そこで、切除を予定した肝門部領域悪性胆道狭窄に対する術前 EBS として、従来通りの胆管から十二指腸外へ留置する方法 (conventional EBS; CS)と胆管内に留置する方法 (inside EBS; IS)の治療成績を比較検討して、至適な留置法を模索することを目的としました。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日-2024年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2015年1月から2021年5月までに大阪市立大学医学部附属病院消化器内科で、肝門部領域悪性胆道狭窄に対して内視鏡的逆行性胆道膵管造影検査(Endoscopic retrograde cholangiopancreatography; ERCP)を施行した患者さんが対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記の項目を使用させてください。 具体的には、病歴、診断名、年齢、性別、BMI、併存疾患、既往歴、血液検査データ、CT画像、ERCPデータ、偶発症、処置日、手術日、ステント閉塞した日、追加治療や再治療内容です。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院 医学研究科 消化器内科学 病院講師 丸山 紘嗣
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。また、研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	研究責任者 大阪市立大学大学院 医学研究科 消化器内科学 丸山 紘嗣 住所 545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 電話 06-6645-3811 FAX 06-6645-3813 E-mail hiromaruyama99@gmail.com